

俳句の部

最優秀賞

ほつほつと霽降る夜の甲羅酒

広島県尾道市 石井 由起子

甲羅に燗酒をいれ七輪で焼く。外は霽あせが降っているらしく、小さな音が耳に届く。しばらくすると甲羅の焼ける匂いと蟹みそと酒の入り混じったかぐわしい香りが部屋に漂い、なんとも嬉しい気分に合わせてくれるようです。一人でもいいし、数人でもいい。旅情はこれに極まるのでしょうか。幸せな光景です。ね。

優秀賞

湯上がりのほてった頬青柳の撫でゆけり

東京都千代田区 三代 孝子

湯上がりのほてった頬を撫でるのが青柳だというところが巧妙です。共感する方も多い事でしょう。「撫でゆけり」とあって、「撫で」ることが自分ひとりの感覚で完結せず、なおも川端を吹き渡ろうとしているように思えます。青柳がしなやかに揺れている様子が分かります。なんだか夢の世界をさ迷っているようにも思えるのです。

幻灯の夢のかよい路冬の川

兵庫県宍粟市 大久保 沙方里

「夢のかよい路」とは「夢路」のこと。ただし、ここでは幻灯機で映し出されたような幻想的な川の風情を指しているのです。冬の厳しい寒さのなかに静かに流れる川。その川面に街の明かりが照り返されてあたかも幻灯機に仕組まれた様に見えるのでしよう。三例の「の」が全体にまろやかな印象をあたえ、ほのぼのとした句になっています。

宿の灯ひに潤うるむ湯の街月朧おぼろ

大阪府枚方市 高木 美智子

夜の湯の街の風情は、また昼とは違つて美しいものです。この句のように朧な月が天空にあるならなお一層情緒が増す事でしょう。湯の街の夜の温泉街を朧月と共にそぞろ歩いてみるのも実にいいものではないでしょうか。漢字が多く用いられているのも特に気にはなりません。なんだか漢詩文とも重なるような…。

湯けむりや柳にのぞく月の笑み^え

京都府京都市 渡 辺 良太郎

結句が決め手ですね。月を見る者によつてさまざまな表情をします。笑っているように見た人は心に笑えるような余裕を抱えていることでしょう。川端の柳の隙間から月の姿を見上げて何かいいことを思いついたはずです。温泉の湯けむりから次第に遠くのものに目を移し、「笑み」まで広げていく修辞法も上手ですね。

話止む姦^{かしま}しシニア蟹^はを食む

兵庫県朝来市 竹 村 雅 子

蟹を食するときにはひたすら黙ってしまふ。とくに「姦しシニア」においては。この「姦しシニア」と一括りにしたことこの句の優れた点があり、絶妙にして滑稽な句が出来上がりました。話止むまでの情景を思い浮かべ、一転しての沈黙に思わずニヤリとしてしまいます。無敵のシニアに乾杯！

佳 作

湯上がりに雪降る窓みて一人待つ

大阪府大阪市 中尾 恒道

日が暮れて立ち上る湯気朧月

大阪府高槻市 沖 中 秀

にはたづみ鼻緒かくれる雨水かな

東京都足立区 佐藤 春夫

風呂の熱冷めやぬ前に筆をとり

京都府京都市 久戸 崇裕

鈴虫や旅客奏でる下駄の唄

大阪府大阪市 辻 翔太

目に青葉硫黄の香せみの声

広島県東広島市

阿部 綾 萌

湯あがりにぬれ髪の君可愛いね

奈良県大和郡山市

河 寫 弘 美

湯の上に散るは枯葉と冬の雪

福井県敦賀市

山 口 雅

錦秋の終着駅は湯のけむり

京都府南丹市

松 魚 継 代

城崎は宿良し湯良し日本一

鳥取県鳥取市

坂 田 千代乃

温泉と春は英語でスプリング

兵庫県尼崎市

福 田 佑 真

春雨を浴びて色付く凍雪

京都府京都市

瀬川友香

朝雨の止みし城ノ崎春を増す

大阪府茨木市

島野聖人

軒かすめ造り酒屋のつばくらめ

兵庫県明石市

小田龍聖

温泉^ゆ上がりの頬に溶けたり細雪

大阪府吹田市

市場さと枝

川端のラムネ二本の恋はじめ

奈良県奈良市

甲斐田八重

七つの湯遠路の墓参^{ちち}義父^{ちち}の城崎^{さと}

滋賀県草津市

橋本道子

大師山夏の終わりのひぐらしかな

下駄の音弾む会話は夏讃歌

文芸館出て遠雷の街の濡れ

さとの湯に友と語らう卒業期

河岸暮れて葭切^{よしきり}叫喚夜もすがら

城崎のあまた碑めぐり文化の日

高知県高知市

西脇 高峰

兵庫県西宮市

武村 悠真

京都府舞鶴市

田中 佐知子

大阪府池田市

柊 水月

兵庫県豊岡市

藤田 幸美

兵庫県淡路市

武田 順子

城崎は城崎の香あり初の風呂

兵庫県豊岡市

谷口 俊一

柳絮落つ水面揺れたる鯉の口

兵庫県豊岡市

安田 尤之

湯の街を染めて行くなり初明り

兵庫県姫路市

中島 保

荒波を物ともせず蟹漁船

大阪府枚方市

高木 司郎

淑^し氣^く満^みつ^つ玄武の洞のひらけくる

兵庫県豊岡市

森田 洋

喜寿の母つつむ城崎小六月

兵庫県朝来市

高橋 久美枝

子の愚痴を黙って聞いてる松葉蟹

兵庫県川西市

木内 美由紀

湯屋を出でカフェは満席冬はじめ

大阪府羽曳野市

赤澤 皆

洞窟の奥で湯治の朧月

大阪府大阪市

杉中 康平

凜として城崎七湯春の雲

大阪府高槻市

大庭 勲

城崎の湯屋を吹き抜く晩夏の風

大阪府大阪市

西田 万貴香

雪降りて湯めぐる旅に幸（鴻）来たる

千葉県船橋市

奥村 清正

テスト出るサイン・コサイン・松葉ガニ

金婚の湯めぐり浴衣君愛し

老鶯と風の声のみ極楽寺

黙浴のもの思いに降る蟬時雨

城崎の湯舟に響く雉の声

旅める滝流れゆく轟々と

兵庫県神戸市
布施 龍之介

兵庫県赤穂市
矢野 庸子

兵庫県姫路市
尻無濱 一美

兵庫県西宮市
足立 春奈

千葉県船橋市
樽谷 幸龍

兵庫県神戸市
南雲 一慶

涼し星音色響かせ軋む足

大阪府高槻市 森谷孔貴

湯けむりで壁超え話す恋の声

大阪府高槻市 金原成海

粉雪や湯巡り引立つ魔法かな

大阪府池田市 荻野尚輝

入 選

好きだよと想い奏でる下駄の音

兵庫県豊岡市 岩下利彦

良き友と露天風呂から見る雪化粧

兵庫県川辺郡 佐藤優花

一の湯のみどりの雨気につかりけり

兵庫県三田市 丸田淳子

きのさきの湯煙かおる青モミジ

広島県広島市 西村直駿

身を清め明日も新たな温泉寺

滋賀県草津市 橋本篤典

熱すぎて風呂にも入れぬ二日酔い

京都府京都市

田村隼太郎

露天風呂突然始まるせみしぐれ

兵庫県加古郡

福井 勇

秋あかね夫婦で湯めぐり頬染める

愛知県北名古屋市

森 悟

湯冷ましの文庫の向こうに柳の葉

京都府京都市

齊藤巧磨

赤き頬友と青空生姜の湯

京都府宇治市

藤川ゆめ

湯をくぐり落ち葉の流れを聴く和み

大阪府枚方市

横山育恵

湯あたりにホッと一息雪をみる

滋賀県湖南市

梅景碧人

コロナ禍に溢れんばかりの心の湯

大阪府大阪市

泉川由佳

城崎の思い出一番ゆでたまご

大阪府八尾市

平田悠

城崎の外湯めぐりや朝の声

大阪府大阪市

武藤幸輝

地藏さま秋風感じて何思う

京都府八幡市

小林正人

子宝を願って入る夫婦かな

京都府宇治市

木戸智子

街並みをかくすは霧か湯けむりか

大阪府大阪市

黒田万智

秋入梅温泉たまごが晴れとなす

大阪府大阪市

福田胡桃

きのさきのいで湯出会いし雪もみじ

埼玉県朝霞市

比留間寿昭

雪中に紅葉舞い降り湯癒し

三重県鈴鹿市

立石りか

足湯でね赤いくつしたはいてみた

奈良県生駒郡

塚本桃花

湯けむりや忘れ残りの蟬の声

山梨県甲府市

佐野一彦

はからずも湯巡り無料開山忌

兵庫県加古川市

高橋宣子

湯けむりと遠くで響く太鼓の音

大坂府大阪市

真鍋綾乃

花いかだ鯉も桃色ゆかた着て

栃木県宇都宮市

宮本光

湯けむりにつつまれながらの夢花火

大阪府松原市

小笠原信哉

久方の賑はふ城崎五月晴れ

兵庫県川西市

佐保田全弘

下駄刻む夜の湯に咲く風情あり

千葉県市川市

須藤涼太

湯あがりに汗ばむ二人夏の風

兵庫県神崎郡

村上昭人

黄昏にひぐらし奏でる滝の音

大阪府阪南市

舟場大悟

温泉へ胸躍らせる柳道

大阪府大阪市

佐倉弘道

七湯巡り火照った横顔親子かな

大阪府八尾市

文字泰佑

コウノトリ我が家に子供をこのとおり

兵庫県豊岡市

中村真一

城崎の湯で温まる家族愛

大阪府柏原市

浅井勇記

また来るわ時が止まった城崎に

大阪府堺市 住友孝雄

湯あがりの地酒片手に頬紅葉

滋賀県大津市 河辺邦彦

城崎の外湯めぐりて秋の暮

京都府向日市 秋葉まき子

湯煙か溶けて目にする雪の先

滋賀県高島市 堀池優貴

カップルの似合う城崎穀雨かな

岐阜県各務原市 大江しげみ

ホーホケキヨ我が鳴き声に鳥返す

大阪府堺市 相田周一

万緑や古刹の屋根をロープウエイ

東京都文京区

高橋 亜緒郁

湯上がりの吾に青柳の風やさし

兵庫県淡路市

武田 啓道

足湯めぐり外湯めぐりや青嵐

兵庫県神戸市

内田 顕子

太鼓橋シッターチャンスや花筏

兵庫県豊岡市

山田 まゆみ

湯あがりの肌にうれしき若葉風

兵庫県神戸市

内田 あさ子

病む友は声はずませて蟹しゃぶる

京都府京丹後市

中川 加代女

夕餉まえずいどろ隧道くぐって外湯へと

兵庫県豊岡市

畑中照久

秋夕焼湯けむり巡る鴻の湯へ

大阪府大阪市

水杉武子

城崎や湯香懐かし蟹恋し

福井県坂井市

中村惠實